

平成22年6月14日現在

研究種目：特定領域  
 研究期間：2005～2009  
 課題番号：17083007  
 研究課題名（和文）中近世東アジア貨幣史の特殊性・共時性とその貨幣論的含意

研究課題名（英文）Unique Characteristics and Synchronicity of Currencies in Medieval and Early Modern East Asia and their Implications in the Theory of Money

研究代表者

黒田 明伸 (KURODA AKINOBU)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70186542

研究成果の概要（和文）：日本中世における中国渡来銭への依存という小額通貨の海外流通事例を手がかりに、通貨にはそもそも還流しにくい性質があり、ことに運搬と収集の費用が大きい小額通貨はその度合いが強く、それゆえに地域的に大小さまざまな額面の通貨の独自の組み合わせがつけられる傾向があり、通貨の受領は、当該貨幣の金属価値や発行主体への信任などとともに、現地市場の貨幣需要全体の中に上手く組み合わされるか否かに依存することを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Copper cashes originated from China whose denominations were small had dominated monetary transactions through medieval Japan. As collection and transportation of small denomination currencies needed a large cost, a regional economy tended to assort plural currencies whose denominations could fully cover all size of transactions. Acceptance of a currency depended not only on intrinsic value or extrinsic enforcement by authority but on whether it could fit in the assortment of currencies which regional market demanded.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,500,000	0	4,500,000
2006年度	9,000,000	0	9,000,000
2007年度	9,900,000	0	9,900,000
2008年度	9,000,000	0	9,000,000
2009年度	9,600,000	0	9,600,000
総計	42,000,000	0	42,000,000

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：貨幣、補完性、東アジア、銅銭、小額通貨、運搬費用、貨幣考古学、マリアテレジア銀貨

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本中世における中国渡来銭への依存について、平安期に米、布といった物品貨幣に依存していた日本でなぜ 12 世紀末から突然中国銭使用が始まったのか、悪銭は常にあるのに 15 世紀末からことに撰銭現象が問題化するのなぜか、どうして 16 世紀末に取引が銭遣いから米遣いに急変するのか、といった問題が未解決のままであった。(2) 中国を中心とする東アジアの貨幣制度の特徴は、銅銭という小額通貨を中心としていたことにある。銅銭は、金銀貨と比べて鑄造費用が高くつき運搬費用もかかる。発行者にとっては鑄造差益を得にくく、いったん撒布されると還流が期待できない。従来の研究ではそうした銅銭の特徴が十分にふまえられていなかった。(3) 東アジアの歴史にみられた、還流しない貨幣、地域ごとに差別化される貨幣、越境する小額通貨、という史実は、西欧・地中海世界の貨幣現象から抽出された従来の貨幣論の想定を越えたものであった。

### 2. 研究の目的

(1) 国別研究を超えて、東アジア三国の貨幣流通の相違と共時性を明らかにすること、(2) 貨幣考古学的知見から物質資料調査を深めること、(3) 東アジア貨幣史を世界史全体に関連させ、かつその特徴ある史実に即した貨幣理論の構築をめざすこと、を目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 単一の貨幣体系を前提視せず、多元的に存在する貨幣間の補完性を比較する視点から新しい世界貨幣史を展望し、(2) 既存の理論に

史実をあてはめるのではなく、史実からの帰納的推論と親和した貨幣理論モデルを構築することをめざした。

### 4. 研究成果

(1) 東アジア貨幣史の共時性に関しての最大のトピックは日本中世における中国渡来銭への依存であった。本研究により、12 世紀後半の南宋における紙幣普及と日本における仏具需要の高まりの組み合わせが銅素材としての銅銭流入をもたらし、結果的に代銭納などに使用されはじめた可能性が高いこと、15 世紀中葉より銀納が契機となって中国北辺で高まった銭相場が福建からの東シナ海沿岸部への模倣宋銭流入をもたらし日中双方で撰銭問題を共時的にもたらしたこと、そして 1560 年代の明による福建の密貿易基地制圧とそれによる福建からの私製銅銭流入の途絶が日本における精銭使用慣行を同様させ、銭遣いから米遣いへの急変をもたらし、ひいては貫高制から石高制への変化の引き金をひいたとの見通しが明らかになった。

ベトナムにおいても撰銭現象など東アジア共通の共時性が確認されるものの、一方で布貨の存在が大きい朝鮮では銅銭の役割がそもそも小さいなどの差異も明らかになった。中世から近世への移行を射程にいれると、日本における 18 世紀後半からの地方市場での貨幣使用の変化とそれに対応する信用取引の深化などが浮き彫りになり、ことに通貨の匿名性と信用の指名性の間の組み合わせの重要性が浮かび上がってきた。

東アジア大の視点から日本中世の貨幣史

を見直す主たる成果としては、櫻井のイニシアチブのより鈴木公雄編『貨幣の地域史—中世から近世へ』が本研究と連動して公刊された。

(2)東アジア共時性の解釈に裏付けを与えてきたのが貨幣考古学のめざましい進展である。本研究において須川の交渉により14世紀の韓国新安沖沈船からの引き上げ中国銭の一部の銭文構成を調査することができたのは新たな貢献といえる。同構成は日本での出土銭の場合と大差なく、このことは日本にもたらされた中国銅銭は江南での使用銅銭を反映していた可能性が高かったことを強く示唆する。また櫻木らのベトナム出土銭調査で14世紀での短陌慣行を確認できたことも貴重な発見といえる。櫻木晋一『貨幣考古学序説』は、一括出土貨幣偏重であった従来の研究に対し、個別発見貨の重要性を明示している。

(3)中世日本に流布した中国銅銭のように海外通貨の広汎な流通がなぜおこるかという問題に関して、同様な事例であるマリア・テレサ銀貨の紅海地域での流通についての黒田の研究成果が *Financial History Review* に掲載され、貨幣間の補完的な関係がこの現象の背景にあることを明らかにした。当該貨幣の金属価値や発行主体への信任などよりも、現地市場の貨幣需要全体の中に上手く組み合わされるか否かが決定的な要因なのである。

(4)「悪貨が良貨を駆逐する」というような貨幣間の代替的關係を自明にしてきた理論が史実にあてはまらず、むしろ多元的で補完的な関係こそが人類史の大部分を占めたことを、世界中の研究者との協同で下記の国際学会などで明らかにした。*Financial History Review*15 卷1号が全世界を対象とした「貨幣の多元性」特集号として黒田の責任編集に

より公刊され、黒田による同号巻頭論文 'What is the complementarity among monies' は欧米の研究者により引用されはじめている。貨幣たちの中には分業関係があり単純に和算されえない関係にあるという観点は人類史理解とともに社会科学の根本概念を変革する可能性を秘めている。

(5)本プロジェクトではことに世界標準での活動と成果発信を目指した。そのため下記の3度の海外の国際学会での部会を主催し、5度の国内での国際ワークショップを開催した。あわせて14カ国・地域より40名の海外の研究者の報告やコメントを得た。

#### 国際学会での部会主催

①15th World Economic History Congress Session P4 'Revisiting Money as a Unified Unit of Account from a Complementary Viewpoint', 4th August, 2009, University of Utrecht (報告者・討論者12名8カ国より)

② Association for Asian Studies Annual Meeting Session 142 'Chinese Monetary History and the Perils of Conventional Monetary Theory', Annual meeting, 5th Apr 2008, Hyatt Regency Atlanta(報告者・討論者6名4カ国より)

③ 14th International Economic History Congress Session 61 'Complementary Relationship among Monies in History', 24th August 2006, University of Helsinki (報告者・討論者15名10カ国より)

#### 国内での国際ワークショップ開催

①国際研討會 '中國貨幣歴史再考察--從多元性和互補性的觀點來看' 2009年12月15-16日, 東京大学東洋文化研究所(報告者・討論者11名5カ国・地域より)

②WORKSHOP 'Monies for Ordinary People: Neither Precious nor National' 2009年10月15-16日, 東京大学東洋文化研究所(報告者10名6

カ国より) ③ WORKSHOP 'Multiple Monies in Asia and Africa' 2008年6月30日-7月1日東京大学東洋文化研究所(報告者・討論者11名8カ国より) ④ WORKSHOP 'Visit Monetary History of a Quarter of Human Beings and Revisit What Monies Actually Are' 2007年5月21日-22日, 東京大学山上会館(報告者・討論者16名7カ国より) ⑤ WORKSHOP 'Complementarity among Monies and Revision of Asian Monetary History' 2006年4月24日, 東京大学山上会館(報告者・討論者9名8カ国より)

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

- ① Akinobu Kuroda, 'The Eurasian silver century, 1276-1359: commensurability and multiplicity', *Journal of Global History* 4-2 (2009) pp.245-269 査読有 doi:10.1017/S1740022809003143
- ② Hidenori Sukawa, 'Currency in Early Choseon Korea: Issuance, Principles and Controversies' *International Journal of Asian Studies* 6-1 (2009) 査読有 doi:10.1017/S1479591409000035
- ③ Akinobu Kuroda, 'What is the complementarity among monies? : An introductory note', *Financial History Review* 15-1(2008) pp 7-15 査読有 doi:10.1017/S0968565008000036
- ④ Akinobu Kuroda, 'Currency circuits concurrent but non-integrable: complementary relationship among monies in modern China and other regions', *Financial History Review* 15-1(2008) pp 17-36 査読有

doi:10.1017/S0968565008000024

- ⑤ Eiji Sakurai, 'Currency and Credit in Medieval Japan', *International Journal of Asian Studies* 5-1 (2008) 査読有 doi:10.1017/S1479591407000915
- ⑥ Akinobu Kuroda, 'The Maria Theresa dollar in the early twentieth-century Red Sea region: a complementary interface between multiple markets', *Financial History Review* 14-1(2007) pp 89-110 査読有 doi:10.1017/S0968565007000376
- ⑦ 岸本美緒「中国史における『近世』の概念」『歴史学研究』821(2006年)25-36頁 査読有

[学会発表] (計34件)

- ① KURODA, Akinobu, 'Song coins and Spanish dollars: Taiwan in the global monetary history', 臺灣與海洋亞洲國際學術研討會, 國立臺灣大學歷史學系臺灣與海洋亞洲研究領域發展計畫, 5<sup>th</sup> Dec 2009, 臺北福華國際文教會館
- ② KURODA, Akinobu, 'Anonymous currencies or named debts: Comparison of currencies, local credits and monetary accounts between China, Japan, and England in early modern period', SESSION P4 'Revisiting Money As A Unified Unit Of Account From A Complementary Viewpoint', *15<sup>th</sup> World Economic History Congress*, 4<sup>th</sup> August, 2009, University of Utrecht  
<http://www.wehc2009.org/programme.asp?find=Kuroda>
- ③ KURODA, Akinobu, 'Make Chinese Paper Monies Speak Own History: A Historical Perspective of the Paper

- Money Standard in 1935', 中国商業史論壇, 16<sup>th</sup> Jan 2009, Centre of Asian Studies, University of Hong Kong
- ④ SAKURAKI, Shinichi, 'What Coin Finds Tell Us about Currency and the Use of Money in the Edo Period' European Association for Japanese Studies, 23 Sep 2008, Salent University
- ⑤ KURODA, Akinobu, 'Emancipating Chinese Monetary History from Aristotelian Postulates', *Association for Asian Studies Annual Meeting Session 142 'Chinese Monetary History and the Perils of Conventional Monetary Theory'*, 5<sup>th</sup> Apr 2008, Hyatt Regency Atlanta
- ⑥ KURODA, Akinobu, 'Locating Chinese Monetary History in Global and Theoretical Contexts: From Multiple and Complementary Viewpoints', 「基調與變奏：七至二十世紀的中國」國際學術研討會, 3-5 September, 2007, Zhengzhi Univ. Taipei
- ⑦ KURODA, Akinobu, 'A Comparison of Early Modern Monetary Systems between China, Korea and Japan: Formal or Flexible, Unified or Multiple, and Endogenous or Exogenous?' "Monies, Markets, and Finance in China and East Asia, 1600-1900: Local, Regional, National, and International Dimensions", 13<sup>th</sup> Oct 2006, Institute of Chinese Studies, University of Heidelberg
- ⑧ KURODA, Akinobu, "Complementarity non-integral among monies in history: nature of currency as viscous,

non-uniform, and separable stream" 14<sup>th</sup> International Economic History Congress, Session 61 'Complementary Relationship among Monies in History', 24<sup>th</sup> August 2006, University of Helsinki

<http://www.helsinki.fi/iehc2006/papers/2/Kuroda.pdf>

- ⑨ KURODA, Akinobu, 'The Collapse of the Fujian Trade Connection: What Caused Early Modern Japan to Adopt the Rice-Base Tax System?', International Convention of Asian Scholars 4, August 2005, Shanghai, Shanghai Exhibition Centre.
- ⑩ KURODA, Akinobu, 'Maria Theresa Dollar in Early 20<sup>th</sup> Century Red Sea Region: Indispensable Interface in Multiple Markets', European Conference of African Studies, Africa-Europe Group for Interdisciplinary Studies, 2<sup>nd</sup> July 2005, London, School of Oriental and African Studies

〔図書〕(計8件)

- ① 櫻木晋一 『貨幣考古学研究序説』慶応大学出版会 2009年 328頁
- ② 安富歩 『生きるための経済学』NHKブックス 2008年 253頁
- ③ 鈴木公雄編 『貨幣の地域史—中世から近世へ』(黒田明伸、櫻木晋一、安富歩、櫻井英治共著) 岩波書店 2007年 288頁
- ④ 櫻井英治 『破産者の中世』山川出版 2005年 107頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

黒田 明伸 (KURODA AKINOBU)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70186542

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

安富 歩 (YASUTOMI AYUMU)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：20239768

櫻井 英治 (SAKURAI EIJI)

東京大学大学院・総合文化研究科・准教授

研究者番号：80215681

岸本 美緒 (KISHIMOTO MIO)

お茶の水女子大学・文教育学部・教授

研究者番号：80126135

須川 英徳 (SUKAWA HIDENORI)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：80272798

櫻木 晋一 (SAKURAKI SHINICHI)

下関市立大学・経済学部・教授

研究者番号：00259681

### (4) 主たる研究協力者

中島圭一（慶応大学文学部）、安国良一  
（住友史料館）、Richard von Glahn  
（UCLA）、Hans Ulrich Vogel（University  
of Tübingen）

